

										作成日		令和 年 月 日	
										評価日		令和 年 月 日	
【多文化版】個別の教育支援計画〔 立 学校〕													
氏 名						性 別		歳		国籍			
フリガナ						生年月日		年 月 日					
学校での表記						母 語 使 用 言 語		語					
住 所						連 絡 先							
		続 柄	氏 名			国 籍	本人との言語		日本語使用状況・備考				
家 族 構 成													
保護者への通知		☐日本語の通知文書で対応可能 ☐やさしい日本語で作成した通知が必要 ☐フリガナつきの通知文書が必要 ☐大切な連絡等は翻訳文書が必要											
保護者面談 説 明 会 等		☐日本語で可能 ☐やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 ☐通訳が必要（ ）											
来 日 時 期		年 月 日				滞 日 予 定							
将来の進路希望						在 留 資 格							
学 習 歴		年齢	学年	居住国・ 市町村	就学前の状況、在籍学校、 不就学などの状況			担任	支援員	支援 時間	備 考		
		4-5											
		5-6											
		6-7											
		7-8											
		8-9											
		9-10											
		10-11											
		11-12											
		12-13											
		13-14											
		14-15											
		15-16											
		16-17											
17-18													
18-19													
生活の様子		得意なこと 好きなこと											
		苦手なこと											
本人・保護者の 学校生活 や進路に関 する 希 望		本 人											
		保 護 者											

長 期 目 標 (期 間 : 年)					
言語・文化的 配 慮					
支 援 体 制 関 係 機 関 と の 連 携					
日本語プログラム フ ェ ー ズ	フ ェ ー ズ	1 (年 月)	2 (年 月)	3 (年 月)	4 (年 月)
	支 援 時 間	週 時間	週 時間	週 時間	週 時間
	支 援 形 態				
「ことばの力の ものさし」による アセスメント	実施日 (実施者)	包括的なことばの力 本人の現状／年齢の目標	日本語固有の力 本人の現状／年齢の目標	アセスメントを踏まえた指導の方向性 (ほか)	
	年 月 日 ()	/	/		
	年 月 日 ()	/	/		
	年 月 日 ()	/	/		
	年 月 日 ()	/	/		
	年 月 日 ()	/	/		
特別の教育課程を含む日本語学習に関する総合的な所見					
1 年 (年 月)					
2 年 (年 月)					
3 年 (年 月)					
備 考					
作 成 者	担当教員： 多文化スーパーバイザー： 支援員：				

言語・文化的配慮の観点・項目と具体例

観点（１）学校生活上の配慮

- （１）－１　日本語を母語としないことによる学校生活上の困難への配慮
- （１）－１－１　行動のめやすになる表示などのユニバーサルデザイン
- 例）ピクトグラム等　特に災害時の対応　サバイバル日本語の修得支援
- （１）－１－２　児童生徒同士のコミュニケーションをとりやすくする配慮
- 例）翻訳機　電子辞書等
- （１）－２　母文化が異なるための学校生活上の困難への配慮
- （１）－２－１　コミュニケーション上の配慮
- 例）身体接触　学校文化（清掃、持ち物、部活動、行事、行動規範等）
- 例）ものの貸し借り、けんかななどをめぐる文化によるコミュニケーションの違い
- （１）－２－２　施設・設備面での配慮
- 例）給食　トイレ　宗教（お祈りの場所等）

観点（２）日本語及び教科学習上の配慮

- （２）－１　学習内容の変更・調整
- （２）－１－１　教育課程の違いへの配慮
- 例）学んだことのない科目や学習内容への配慮
- （２）－１－２　母語・母文化の違いから生じる困難度が高い科目の取り出し指導
- 例）国語科、社会科、家庭科等を別室で指導
- （２）－２　教材や方法上の配慮
- （２）－２－１　教材の工夫
- 例）実物・模型・絵・写真・図の活用　学習の流れがわかるワークシートの活用
- （２）－２－２　体験的な活動の導入
- 例）実験やフィールドワーク
- （２）－２－３　デジタルツールの活用
- 例）翻訳機、タブレットの活用
- （２）－２－４　やさしい日本語による説明
- 例）その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する

観点（３）母語・母文化の尊重と多文化共生の取組

- （３）－１　本人の心理面を考慮した母語や母文化の尊重
- 例）日常的な尊重による、自尊心やアイデンティティ、保護者との関係への配慮
- （３）－２　周囲との間での互いの文化の理解と多文化共生に向けた取組
- 例）社会科・家庭科・芸術科、総合的な学習の時間、行事等での相互理解の機会
- （３）－３　国による教育制度等の違いに配慮した取組
- 例）日本の高校への進学に向けた母語での情報提供

支援体制　関係機関との連携

- 校内支援体制
- ケース会議を設定し、定期的に個別の支援計画を見直し、協働して支援にあたる　等
- （担任、学年主任・教務主任・養護教諭等の関係職員、管理職、支援員、スーパーバイザー等）
- 関係機関との連携
- 所管教育委員会　弘前大学多文化リソースルーム　地域のNPOや国際交流協会等との連携の具体的なあり方

母語・母文化の尊重のために

【基本的な考え方】

- 日本の学校では当たり前と思っても、相手の母文化では当たり前でないことがたくさんあります。次の２つの姿勢を基本として対応していきましょう。
- ①　日本の学校教育の考え方や指導方針について、理由や背景も含めて丁寧に説明し、理解してもらう。
- ②　宗教など相手にとって大切な価値観を尊重し、受け入れる。

配慮を必要とする可能性のある言語・文化的な違いの例

- トイレ
- ・ジェンダーフリー（みんなのトイレ等）
- 行事への参加
- ・児童生徒は参加することになっている（国によっては任意や修学旅行など宿泊を伴う活動がない／教育活動に入らない）
- ・保護者の参加の有無（PTA、運動会、授業参観など）
- 宗教上の習慣
- ・礼拝室
- ・ウドゥ（シャワーコーナー。お祈り前に身を清めなければならないため）
- ・モスクへ行く（金曜午後）
- 身だしなみ
- ・服装、化粧、香水、アクセサリー等（宗教的なものもある　例　ピアス（お守り））
- 食事への配慮
- ・宗教上禁止または嫌悪されている食材
- ・ラマダン（断食期間）日没後は食べられる
- ・弁当
- 昼食は帰宅して食べる、
- 冷たい食事を食べない文化、
- 「日本の弁当」のイメージと違うもの
- ・食器を持ち上げて食べない文化
- 部活動（特に体育系）
- ・中・韓では、部活動はほとんどない
- ・米では、スポーツ系の部活動は学校ではなくエリート（アスリート）養成
- 宗教による禁止または嫌悪事項
- ・歌、踊り、楽器、自画像を描く、水泳など
- ・左手を使うことは避ける（ヒンドゥー教）
- ・頭をなでる
- 未就学の可能性がある教科
- ・国　全般、書写
- ・社　地域学習、日本の歴史
- ・理　植物の栽培、実験
- ・算　九九、計算方法の違い
- ・音　リコーダー、鍵盤ハーモニカ
- ・体　跳び箱、マット運動
- 遅刻・欠席
- ・欠席するときに連絡をしない
- ・家事や下の子の面倒を見ることが優先されるため学校を休む／遅刻する
- ジェスチャーの違い
- ・OKサイン（親指と人差し指で○を作る）→国によっては「お金」の意味
- ・おいでおいでの手招き
- 国によっては「あっち行け」の意味
- 教具・教材
- ・教材・教具は購入する必要がある
- ・教育は無償の国もある
- ・制服（ある場合）、体操服、ジャージ、内履き、〇〇袋、〇〇セットなど
- 採点方法の違い
- ・赤ペンを使わない
- ・正答に○→正答に✔